

平成27年度 吉野ヶ里町立東脊振中学校 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
自主的に学び合う生徒の育成	① 学習の構えを徹底し、学力向上を図る。 ② いじめ防止と不登校への対応の充実など人権教育を中核に据えた生徒指導や特別支援教育の充実を図る。 ③ 小中連携による校内研究の充実を図る。 ④ 個性を伸ばす部活動の推進に努める。

3 目標・評価								学校関係者評価委員会から	
① 学習規律の徹底と学力向上									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	評価及び意見や提言など	
学校運営	○教職員の資質向上	学び合う授業の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上アクションプランに基づき、「めあて」「課題解決(学び合う活動)」「まとめ・振り返り」の授業を100%実践する。</li> <li>教育センター講座などを、1人1講座以上受講する。</li> <li>全教職員が研究授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上アクションプランの実践状況をチェック表で毎月確認する。</li> <li>黒板に「めあて」「まとめ」のカードを貼り、それを明確にした授業を行う。</li> <li>学習指導案に「めあて」「課題解決」「まとめ・振り返り」を明記する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェック表での毎月の確認ができたのは80%程度で、確実にはできなかった。</li> <li>「めあて」「まとめ」を意識した授業は概ねできた。</li> <li>学び合う活動については、校内研究を通して、その方法などを工夫できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェック表での確認がより簡単にでき、自分を振り返ることができるようにチェック表を工夫する。</li> <li>学び合う活動の工夫について、教師がお互いに授業を見合っ、具体的に協議しながら指導方法を改善していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の資質向上は、子供たちの学力向上につながるものと確信する。教師同士の互いの学び合う姿は、子供たちにも連鎖する気がする。チェック表を工夫して、毎月の確認度合いを上げる努力が望まれる。</li> </ul>
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT利活用による学習内容の理解促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板等を利用した授業づくりを行い、電子黒板の活用率が90%を上回る。</li> <li>ICT利活用に関する職員研修を年2回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板の操作・活用についての全職員研修会を実施する。</li> <li>ソフト活用スキルアップについての小規模研修会を実施し、活用力向上を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板を利用した授業づくりは概ねできたが、チェック表をしていないため、活用率は出せなかった。</li> <li>電子黒板の利用についての研修は4月当初に行うことができたが、活用力向上を図る研修会の実施はできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板等を利用した授業の実施状況を毎週チェックし、月単位で職員全体で共通理解を図る。</li> <li>活用力向上のための校内研修会を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板という新しい授業のやり方は、子供たちにとって学びやすく、学習意欲の向上にもつながると思うが、苦手意識の強い先生の負担のならないようにすることも大切である。得意な先生が不得意な先生を進んでフォローしてほしい。</li> <li>忙しいと思うが、研修会の実施が必要である。</li> </ul>
教育活動	●学力向上(学習規律)	基本的な学習規律の徹底指導と定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の心構えを掲示し、授業開始時等に確認する。</li> <li>ノーチャイムを実施し、時間を意識した行動を80%の生徒が行える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会で、学習の心構えを一齐に読みあげ、授業に真剣に取り組もうという意識をもたせる。</li> <li>生徒会が中心となってノーチャイム活動に取り組む。</li> <li>朝の放送を8時から5分間行い、登校時の時間の意識化と遅刻0を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの教室も学習の心構えを掲示し、朝の会で読み上げる取組をすることができた。</li> <li>1年を通してノーチャイム活動に取り組むことができた。ノーチャイム活動がまだ定着されておらず、時間を意識した行動をしている生徒は50%程度である。</li> <li>朝の放送の取組により、遅刻をする生徒が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノーチャイムでも授業開始時に着席ができるように、生徒会とも連携して、時間を意識した行動ができるようにする。</li> <li>学習の心構えを意識した行動ができる生徒の育成に努めるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノーチャイムや朝の放送などの多くの取組の中で遅刻者がいなかったことは評価できる。</li> <li>チャイムがなくてもメリハリのある生活ができるよう取組に工夫が必要である。</li> </ul>
教育活動	●学力向上(学び合う活動)	思考力・判断力・表現力の育成と基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力を育成するために学び合う活動(グループ活動)を授業で100%行う。</li> <li>基礎・基本の定着のために、少人数授業やTT授業を全学年で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び合う活動の基本スタイルを作成する。</li> <li>思考力・判断力・表現力を高めるための課題設定の在り方について研究し、共有する。</li> <li>効果的な少人数授業やTT授業の指導方法について、資料収集を行い、研修会に参加して力量を高める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び合う活動の基本スタイルとして、グループ活動時の机の配置を工夫して統一し、授業に取り入れた。</li> <li>授業研究会を実施して情報の共有に努めた。単元での活用の仕方、発問の工夫などを知り、授業の改善に役立てることができた。</li> <li>国語、社会、数学、理科、英語で少人数授業やTT授業を実施し、個に応じたきめ細かな指導を行うことで、基礎・基本の定着につなげた。</li> <li>各教科から、学び合う活動で身に付けられる力や、学び合う活動を取り入れた授業・単元などの提案を行うことで、他教科の取組状況を知ることができ、取組の幅を広げることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科独自の学び合う活動は進み、思考力や判断力の育成につながってきている。今後は定期的に機会を設定して、学び合う活動についての情報や意見を共有し、さらに表現力の向上につなげられるような活動を続ける必要がある。</li> <li>研修会等で学んだ個々の情報を共有するとともに、学び合う活動についての講師を招聘しての職員研修を行う。</li> <li>授業研究会を実施し、教師の指導力の向上に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数授業やTT授業で基礎・基本をしっかり身に付けると必ず応用が伴い、思考力、判断力は付くと思う。少人数授業での丁寧な学習が望ましい。</li> <li>グループ活動時の机の配置を工夫するなどしているが、職員研修や研究会を通して、先生方の指導力がさらに向上することを期待する。</li> </ul>

教育活動	●学力向上 (家庭学習)	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で取り組んでいる自学ノートの提出率が90%以上になるようにする。</li> <li>・家庭学習時間1時間以上が80%以上になるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の方法や内容の充実について指導し、参考となる自学ノートの掲示を行って意識化を図る。</li> <li>・家庭学習の実施状況を毎月点検し、家庭学習の習慣化を図っていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考となる自学ノートについては、各クラスとも評価して教室後方に掲示することができた。形成的評価として生かすとともに、ノートの内容を見直す参考とすることができた。</li> <li>・生徒会活動の学習部の取組を生かし、自学ノートの提出率と家庭学習時間の目標値達成に向けた取組を行った。</li> <li>・クラスによって自学ノートの提出率に差があり、全体の平均値としては80%程度で、90%以上の目標を達成できなかった。</li> <li>・家庭学習時間が1時間以上の生徒は、1年生が77.2%、2年生が57.6%、3年生が80.0%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励される取組例として自学ノートの実践例を継続して掲示し、生徒会活動とも連携して学習内容の充実を図る。</li> <li>・各クラスで点検し集計した結果を全体で集約する場(掲示板や校内放送など)を設けるなど、数値目標を達成できるように工夫する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現2年生の家庭学習時間が少ないのが気になる。家庭での勉強が習慣化していないということだろうが、原因をもっと追究してみて、予習・復習の大切さを指導したり、家庭学習の仕方を分かりやすく指導したりする必要がある。</li> </ul>
教育活動	●学力向上	読書量が増え、読書の幅は広がったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、教科との連携を図る。</li> <li>・図書資料の充実と環境づくりに努める。</li> <li>・1人1か月に3冊貸出、年間8,000冊の貸出をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・教科と連携し、図書に関する情報発信の機会を増やす。</li> <li>・生徒が親しみやすく、利用しやすい環境づくりに努める。</li> <li>・委員会と協力し、定期的なイベントを開催する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年総合学習での職業調べ、家庭科での絵本の貸し出し、国語科での読書感想文の選書などで、学年・教科との連携をし、図書館を利用する機会を増やした。</li> <li>・季節の本、お勧めの本のコーナーを設けたり、キャスター付きのカーツを準備して各事典の貸し出しを行ったりするなど、環境整備を行うことで、図書館を身近な存在となるようにした。</li> <li>・図書・広報部と連携し、「サマーフェスタ」「ポップコンクール」「ウインターフェスタ」を企画したり、図書館だよりで新着図書や多読者などを知らせたりして、図書館利用を活性化した。</li> <li>・12月末の時点で、貸出総数は、6,534冊となっており、目標冊数である8,000冊が実現可能な状況であり、取組の成果が出てきていると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、教科との連携を更に増やし、学校全体で取り組む。</li> <li>・読書量に目を向けながらも、質の高い読書推進を図るため、長編小説をすすめたり一冊完読する楽しさを身に付けさせたりする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活字離れや電子書籍の普及などで本を読む若い人を見かけなくなった昨今であるのに、本の貸し出し総数の目標達成は、素晴らしいと思う。</li> <li>・「読んでほしい」と思う取組が実を結んでいる。これからも読みたくなる工夫を期待する。</li> </ul>

② 生徒指導・特別支援教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	評価及び意見や提言など	
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応と仲間づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、生活アンケートを実施し、いじめの早期発見と対応を行う。</li> <li>・学校生活が楽しいと回答する生徒が70%以上になるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出番・承認・称賛により、生徒の自己肯定感を高める。</li> <li>・いじめへの組織的な対応体制を作り、未然防止に向けて、定期的に職員間の情報交換を行い、共通理解を図る。</li> <li>・自己肯定感と他者理解を高めるため、道徳教育の充実を図り、グループエンカウンターなどの活動を実践する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や学級活動において、仲間づくり・居場所づくりに努め、生徒に役割をもたせ、サポートしながら成功体験をさせるなどして、活躍の場や称賛を与える機会を設けることができた。</li> <li>・毎月の生活アンケートと学期に1回はいじめアンケートを行い、問題点を把握し、教育相談などに生かすことができた。</li> <li>・人権作文、人権週間において、いじめについて考える機会を設けることができた。</li> <li>・道徳教育の充実を目指すため、今年度から年2回、充実感と向上心、規範意識などの生徒の状況を見取る総合質問紙調査 i-checkを行い、その結果を各学級での指導に生かした。i-checkの「今のクラスが好きですか」の問いについて、5月と11月では肯定率が、1年生は1.5ポイント、2年生は1.0ポイント、3年生は17.0ポイント上昇した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの生徒も自己肯定感を高める活動を学校全体で取り組む。</li> <li>・引き続き、生活アンケートの実施により、いじめ、問題行動等の早期発見に努める。</li> <li>・いじめ防止については、生徒の特性が多様化したり、家庭環境が複雑化したりしているため、関係機関との連携や細かな指導の推進により一層努めていく。</li> <li>・生徒指導協議会や普段の会話の中で教師間の情報交換を密にし、生徒とのコミュニケーションに生かす。個別支援のための検討を行い、細かな配慮をしながら指導にあたる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校が好きか。クラスが好きか。」の問いに対してポイントが上昇していることはすばらしい。特に、部活動や学習などの重圧がある3年生がポイントアップしていることは、今後下級生にもつながるはずである。</li> <li>・各家庭で生まれ、大事に育てられてきた命であるので、苦しむ生徒が出ないようにしてほしい。</li> </ul>

教育活動	○教育相談	不登校や気になる生徒の早期発見・早期適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、生活アンケートを実施し、気になる生徒の早期発見と相談対応を行う。</li> <li>教育相談部会を毎月実施し、共通理解を図る。</li> <li>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を100%行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談部会において、不登校生徒や気になる生徒の状況把握を行い、連絡会などで職員への共通理解を図る。</li> <li>状況に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど外部機関を交えたケース会議を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会と連携してアンケート項目を見直し、毎月の生活アンケートや学期に1度の教育相談アンケートを実施し、不登校生徒や気になる生徒の状況把握を行い、その後のカウンセリングや支援につなげることができた。</li> <li>教育相談部会を毎月実施することはできなかったが、各学年の担当者と連絡を取り合い職員への共通理解を図った。</li> <li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、外部機関との連携を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活アンケートを定期的に行うことで、生徒の状況把握を行い変化に気付くことができるので今後も継続していく。</li> <li>特別支援教育、生徒指導、教育相談の各担当が共に話し合う時間を定期的に設け、生徒の状況把握や対応できる体制を整える。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もアンケートや外部機関との連携を通して決め細かい配慮を行い、生徒たちの心をつかんでほしい。</li> <li>不登校の生徒がゼロになることが理想ではあるが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが効果的に活用されていることはよい。これからもいろいろなる方の意見を聞きながら進めてほしい。</li> </ul>
教育活動	●心の教育 (人権教育)	人権意識を高め合い、自他を尊重する心情と行動力を持った集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会等を活用し、人権意識を高める講話を行う。</li> <li>人権学習に取り組み、人権意識を高める。</li> <li>職員の人権・同和教育に関する意識と指導力を高めるため、校内研修を行い、校外研修にも一人1回以上参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権・同和教育担当を中心に講話や集会等に取り組む。</li> <li>生徒が協働して取り組む中で達成感を得たり問題解決力を身に付けたりすることのできる生徒会活動、人権集会、平和学習など実施する。</li> <li>外部講師を招聘して校内研修を充実させるとともに、校外研修への参加推進を担当が集約して図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>東部教育事務所から講師を招き、人権尊重の理念や、学校における人権教育を通して育てたい資質・能力、人権感覚や態度・行動力を育てるための方策などについて研修した。</li> <li>体育大会や文化発表会、人権集会などにおいて生徒が主体的に取り組める場を設定し、生徒の自主性を育成するとともに、生徒の自己肯定感を高めるよう努めた。</li> <li>人権集会を開催し、人権作文や東脊振中学校人権宣言の紹介を通して自他を尊重する心情を培うとともに、「障がい」者を招いての人権講話によって「障がい」の有無に関わらず一人の人間として夢や目標に向かって一生懸命に取り組むことの大切さを学び取らせた。</li> <li>人権・同和教育に関する校外研修に全職員が一人1回以上参加できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が人権学習に関する具体的な方法について学ぶために「人権・同和教育資料第45集」を活用する。</li> <li>「東中人権宣言」を学校生活の隅々に行き渡らせるために、生徒会を中心に宣言の周知を図ったり、行動目標を生徒会活動等に反映させたりするよう働きかける。</li> <li>学校生活の中で生徒が主体的に活動する場面をこれまで以上に設定し、活動後にお互いの良いところを見つけ、評価させることを通して生徒一人一人の自己有用感を高め、学級・学年集団の支持的風土を醸成する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「東中人権宣言」の5か条は、全ての人々、老若男女に通じることだと思う。自分も友達も大切な一人であることが心に響く。これからも差別がないよう、人権意識を高めてほしい。</li> </ul>
教育活動	○特別支援教育	生徒の特性に応じた特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の支援・指導計画の作成を行い、充実に向けた見直しの検討会を年3回行う。</li> <li>卒業後の進路を見据えた指導支援体制づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる生徒の実態把握に努め、各学年の特別支援担当者を中心に必要な支援を検討し、生徒の指導支援を行う。</li> <li>対象生徒の個別支援計画を5月中に作成する。</li> <li>夏季休業中に職員研修を行い、特別支援教育について理解を深める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級在籍の生徒については、個別の指導計画に従い、特別支援教育教員と連携した細やかな指導ができた。</li> <li>個別の支援・指導計画の見直しは、担当者と担任で行い、検討会は年1回しか行えなかった。</li> <li>夏季休業中の職員研修会については、東部教育事務所から講師を招き、特別支援教育の充実と改善～通常学級における発達障害傾向のある子どもの指導・支援～について理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育推進委員会の開催については、年間行事計画の中に各学期1回定期的に位置づけることにより、特別支援教育に対する意識を高め、より一層の充実を図る。</li> <li>新1年生については、小学校・中学校の引き継ぎを確実なものにするために、個別の支援計画を引き継ぐ。また、中学校3か年の個別の支援計画については、卒業後の進路を見据え、進路先へ繋げるものになるよう考慮する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級は、専門性を必要とするので、外部の講師から学ぶことで、担当の先生だけでなく、学校ぐるみでスキルアップを図ってほしい。</li> <li>相互に存在を認め合うようにしなければならない。</li> </ul>
③ 小中連携による校内研究の充実									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	評価及び意見や提言など	
学校運営	○小中連携教育	小中学校職員の協働による教育実践の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携して実践する活動の検討と実践化を図る。</li> <li>毎月1回、定例会議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者が連絡を密にして、連携する教育実践がスムーズに行えるようにコーディネートする。</li> <li>小学校での中学校職員の授業を前年より増やす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の小中連携推進会議を実施することができ、小中学校で進めていく取組がはっきりし、実践もできた。</li> <li>各校務分掌における小中学校の担当者間の連携が十分でなかった。</li> <li>研究指定を受けたこともあり、道徳教育が中心になったため、教科の授業での連携が十分にできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携推進会議で検討した内容やその目的を小中学校の全職員が共通理解することが、実践への第一歩になるため、合同研修会の回数を増やす。</li> <li>道徳教育については、足掛かりができたので、次年度は充実させるとともに、教科教育での連携に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>長い間の課題であったと思う。同じ敷地内にあるので、連携はしやすいはずである。道徳教育での連携や月1回の会議、文化発表会への小学校6年生の参加など具体的に動き出したことはよいことである。</li> </ul>

教育活動	●心の教育 (道徳教育)	小中の合同研修会や相互授業参観の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同研修会を年3回実施し、共通理解と協働活動を推進する。</li> <li>・全職員が相互に授業を参観する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の学習指導案を小中で統一する。</li> <li>・学期に1回は、相互に授業参観できるよう時間割の調整をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実を目指した小中合同研修会を全体で2回実施し、部会によっては、さらに協議を続けている。</li> <li>・中間発表会にむけて、学習指導案や道徳の全体計画を小中で統一した。</li> <li>・道徳の授業を相互に参観することは十分にできなかった。時間割の調整に困難さがあるが、次年度はもう少し工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の道徳教育の本発表に向けて、さらに小中合同研修会を重ね、共通理解を進めていく。</li> <li>・道徳の全体計画や学年ごとの計画、別業を見直し、改善していく。</li> <li>・相互に道徳の授業を参観する機会を1学期に設ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心とか道徳とかは、なかなか目に見えず、学力として評価できないので難しい分野ですが、心を太らせることは生徒たちにとっては財産である。</li> <li>・小中相互の道徳授業参観の充実が望まれる。</li> </ul>
------	-----------------	--------------------	---	--	---	---	---	---	---

**④ 個性を伸ばす部活動の推進**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	評価及び意見や提言など	
教育活動	○部活動の推進	個性を伸ばす部活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の特性や特長を把握して、競技に生かす。</li> <li>・部活動運営計画の共通理解と実践を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議等の効率化を図り、顧問の部活指導時間の確保に積極的に取り組む。</li> <li>・部活動顧問者会議を年1回以上開催し、共通理解を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に積極的に取り組むことはできたが、校務などのために顧問が十分に見られない日があった。</li> <li>・部活動顧問者会議を行うことができたが、退部や転部の手続きについての共通理解が不十分だったので、改善した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動指導においては、今後も積極的に取り組むことができるようにし、生徒の技能及び規律の向上を図る。</li> <li>・今年度の反省を生かし来年度の顧問者会議では、各種手続きの細かい共通理解を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会成績がすべてではない。部活動で得られるものがあるので、やり遂げた達成感を生徒も顧問も親も味わえる部活動であることを望む。</li> </ul>

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	評価及び意見や提言など	
教育活動	●健康・体づくり	基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育の授業において、ランニングを行い、全身持久力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランニングを毎時間行い、全身持久力の向上を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に毎回400mのランニングを行うことができた。生徒が自分のペースで走ることで、ほとんどの生徒が意欲的に走ることができた。</li> <li>・全身持久力の向上について、4月と1月に実施したシャトルランの結果を比較すると、53%の生徒が伸びていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に全身持久力の測定を行い、体力の向上を実感させ、運動有能感をもたせる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力、持久力の向上は、精神的な持久力につながるものであるから、学習にも良い影響をもたらす。無理なくランニングを続けて、心身ともに持久力をつけてほしい。学習と体を動かすことのバランスを考えて指導してほしい。</li> </ul>

**3 本年度のまとめ ・ 次年度の取組**

・学力向上については、学び合う活動の充実、学習の心構えの定着、電子黒板の利用、少人数授業やチームティーチングによる授業などによって、成果が表れてきている。家庭学習については、i-checkの結果からみると、1年生は全国平均よりも高いが5月と11月を比較すると学習時間は減っている。2年生は、全国平均よりも低く、11月はさらに学習時間が減っている。3年生は、5月には全国平均より低かったが、11月には全国平均と同じところまで増えている。1年、2年の家庭学習の時間が短いので、次年度には生徒たちの家庭学習への取組についての対策を検討していきたい。

・生徒指導については、今年度いじめの問題が発生した。生徒の互いを思いやる心を一層育て、人権教育や道徳教育の充実をしっかりと進めていく必要がある。

・小中連携教育については、研究指定を受けている道徳教育を中心に進めてきた。次年度には、さらに道徳教育の充実を図り、教科教育の連携など、小中一貫教育を見据えた連携を進めていきたい。

・部活動については、生徒たちが熱心に取り組み、県大会、地区大会において、好成績を上げた部活動もあった。結果にこだわり過ぎず、日ごろの練習を通して、技術の向上とチームワークなどの人間関係力や持続力、忍耐力なども鍛えていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目